

「神経理学療法学のトピックス」

2020年7月1日

日本神経理学療法学会運営幹事：北山 哲也

【若手理学療法士への期待】

神経システムは複雑です。そして、そのシステムの破綻から起こる病態もまた複雑です。だからこそ、奥深く、そうした複雑な問題を探求する学問である「神経理学療法学」は将来性に満ち溢れています。このトピックスを読まれている皆様には、そうした「神経理学療法学」の奥深さや将来性に興味をもって頂ければと思います。

神経理学療法学会では、主に4領域を対象としています。

- ① 脳卒中、頭部外傷、脳腫瘍などの脳損傷
- ② パーキンソン病や脊髄小脳変性症などの神経筋疾患
- ③ 脊髄損傷
- ④ 脳性麻痺などの発達障害

しかしながら、疾患や損傷部位などが同じであっても、臨床的な病態は異なるため、対象者に応じた理学療法が必要となります。全体的な科学的根拠を追求すると共に、個々の対象者に応じた個別的な理学療法に関する探求についても、本学会では重要視しています。

本学会のホームページは以下の URL から閲覧ください。

<http://jspt.japanpt.or.jp/jsnpt/>

【近年のトピックス】

<年間を通じた活動として>

・学術大会(年1回)

最新の科学的知見(神経科学など)をはじめとする関連・周辺領域の研究紹介、ならびに、神経理学療法の臨床実践とその科学的検証について討論します。本大会では、講演、シンポジウム、演題発表などを通じて最新の知見および臨床実践の創意工夫を学ぶことができます。なお、2019年に開催された「第17回日本神経理学療法学会学術大会」の参加者は2,458名でした。

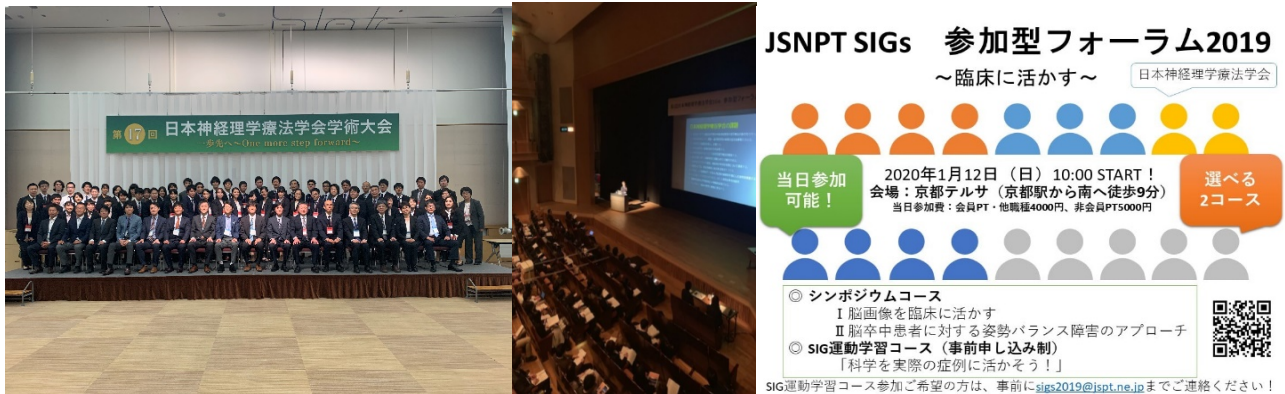
・サテライトカンファレンス(年3回)

症例検討をベースにしたパネルディスカッション、シンポジウムなどを設け、科学的根拠に基づく理学療法の実践について紹介しています。対象者の病態に応じた個別的な評価と介入に関する臨床的工夫について学ぶことができます。2020年2月に開催された「第17回サテライトカンファレンス」の参加者は155名でした。

・参加型フォーラム SIGs(年1回)

SIGs(Special Interest Groups)では、関連する分野・領域における問題点、行動目標を明確にするために各分野の現状と課題、展望などを議論し、それぞれのグループの討議結果をまとめて学会の提

言として公開していきます。参加者はグループを選択し、少人数の討論に参加して他者の考え方を学ぶことができます。理学療法に直結する問題（例：運動学習、歩行障害）について双方向に意見交換しまとめていくワークショップ形式で学びを深めていきます。2020年1月に開催された第3回参加型フォーラムの参加者は508名でした。

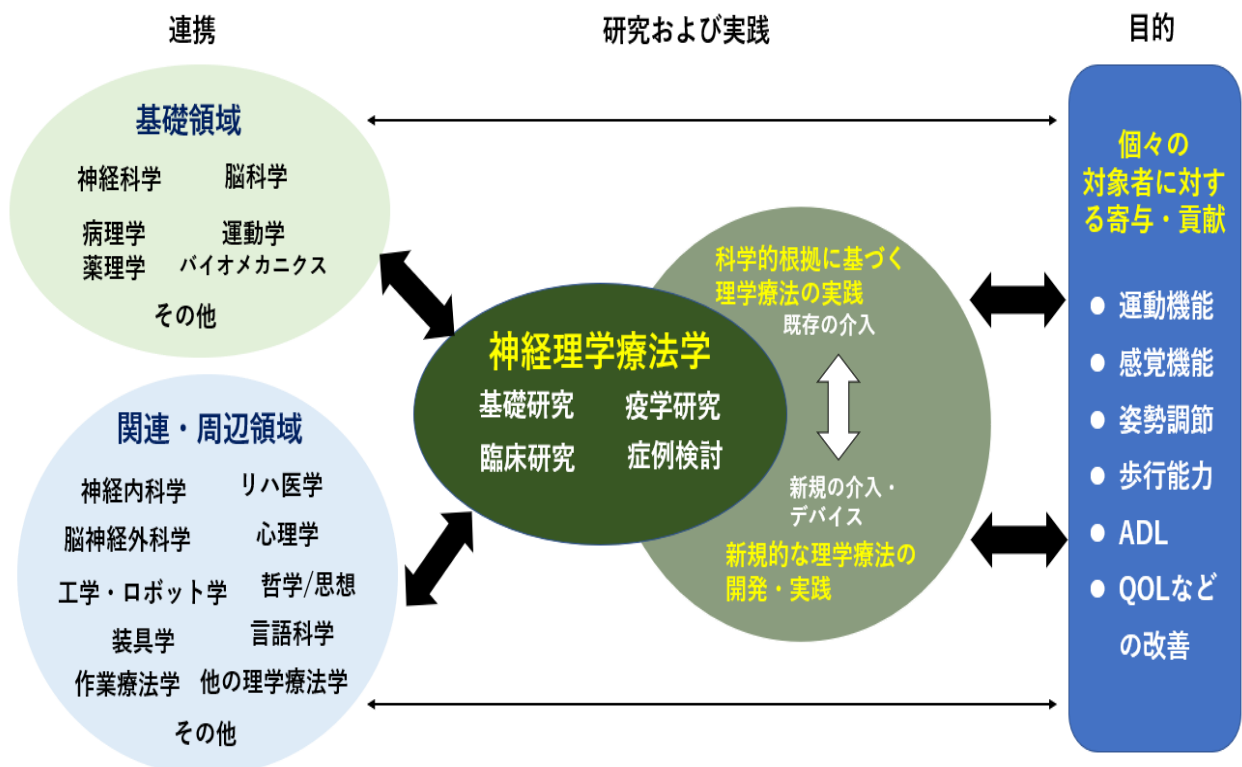


・その他(大規模研究、ガイドライン作成、他団体との連携など)

現在、臨床で実践されている神経理学療法が、より安全で適切であるかということを検証するために、急性期、回復期、生活期において継ぎ目のない連携を図り、大規模研究などを実施します。

ガイドライン作成班では、関連分野における専門家が集まり、数多くのレビューをまとめていき、科学的根拠に基づいた臨床実践を推奨していきます。

また、先端的科学と技術の融合を目的に関連分野・領域の学会・団体と連携を図り、新規デバイスや新規介入方法などの開発を進めていきます。



【今後充実を図りたいこと】

日本神経理学療法学会は、神経科学をはじめとする基礎・関連科学の発展に後押しされながら未来に向けて、神経障害に対する理学療法について改革していきます。そして、神経理学療法が専門的学問体系として社会に認知されるよう働きかけると共に、神経理学療法の科学的根拠を構築していくことを目指します。